



江山文庫 開館30周年

平成6年に開館した江山文庫は、
10月で開館30周年を迎えます。



江山文庫の外観



読書会の様子

晶子童話の読書会を 開催

平成25年から10年以上にわたり、与謝野晶子の童話を紹介する読書会を毎月開催しています。

11人の子を産み育てた晶子は、自分の子どもたちに聞かせる話を自作していました。これらの童話を読むことを通じて、与謝野町ゆかりの歌人・晶子について、短歌以外の創作から知っていく試みです。晶子の童話は、彼女が子育てをした明治末から大正期までの「いま」を舞台にしたものがほとんどで、参加者からは「当時の暮らしを知れる

平成6年の開館以来、江山文庫では多種の企画展を開催。24年には今年と同じ辰年にちなみ、各所に残る龍図の名品を紹介する秋季特別展「さまざまな、龍」を開催し、町内の寺院に伝わる龍の逸話なども紹介しました。

現在は、開館30周年記念展「橋立と大江山とに抱かれて」を開催。題名にあるように、江山文庫と与謝野町を囲む天橋立と大江山にちなんだ作品を多数展示し、江山文庫30年のあゆみを振り返ります。期間中には複数回の展示替えを行い、「第13回与謝野町蕪村顕彰全国俳句大会（11月24日。以下、俳句大会）」を開催する11月には、与謝蕪村が与謝

こともできる」とのお声をいただきます。近年は、この読書会を知った晶子の子孫の方が、遠方や海外からも参加されたりもしています。

過去には「龍」の 特別展も

俳句大会前日の11月23日には、与謝野町観光協会による吟行ツアーが行われます。コースに入っている江山文庫では、蕪村の俳画を観覧するとともに、蕪村研究者の藤田真一氏（関西大学名誉教授）や俳人の岩城久治氏を囲んでの茶話会を行います。ツアー参加者でなくても参加できますので、11月8日までに江山文庫へ申し込みください。

江山文庫開館30周年を記念して、4回にわたり連載しています。次回12月号が最終です。



野町に描き残した俳画作品を特別展示します。

オリジナルの婚姻・出生届が完成

— 宮津天橋高校美術部の生徒がデザイン —

与謝野町では、祝福の気持ちが伝わる町オリジナルの婚姻届と出生届を作成しました。作成の経過は、昨年の町政懇談会で「祝福の気持ち伝わる婚姻届と出生届を検討いただきたい」とのご意見を受け作成したものです。

作成にあたっては、地域貢献へ



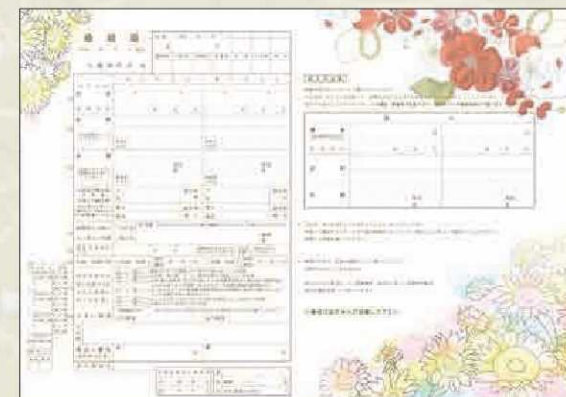
完成した婚姻届と出生届を手にする片田さん（宮津中出身／中央）と赤西さん（加悦中出身／右から2番目）

の意識を高め、町への愛着を一層深めていただきたいとの考えから、宮津天橋高校美術部にデザインを依頼しました。婚姻届は片田瑞希さん（3年）が、出生届は赤西真唯さん（3年）が担当。片田さんは「町の花木を中心に描き、椿はちりめん細工をイメージしています」と、また、赤西さんは「小さいころよく遊びに行ったSL広場の2号機関車と、ちりめんの緯糸と経糸を描きました」と、デザインの背景を教えてくださいました。完成した二つの届書に山添町長は「与謝野町らしい、そして祝福が伝わる素晴らしい婚姻届と出生届にしていた」と感謝の気持ちを伝えられました。

婚姻届



町の花「ひまわり」、町の木「椿」がデザインされた婚姻届。ひまわりの花言葉に「あなただけを見つめる」とあるように、お二人の新たな門出をお祝いするのにピッタリなデザインとなっています。



出生届

幸せを運んでくる鳥「コウノトリ」がデザインされた出生届。コウノトリが飛来する与謝野町の豊かな自然の中で、子どもたちが元気よくのびのびと育ってくれるよう願っています。



※ オリジナルの婚姻届および出生届は、各庁舎の住民税務課住民係で希望者に配布しています
※ 町ホームページから様式がダウンロードできますが、必ず「法定のA3サイズで印刷」してご使用ください



町ホームページ